

1969年の空から見た神川町



それから



54年後...

2023年の空から見た神川町



2つの写真を**見**比べてみましょう!

上段の写真は昭和44年(1969)に小型飛行機で撮影された新里地区の写真です。これは発掘された古墳の調査時に撮影したものです。当時の新里地区は現在と異なり建物が少なく、畑が広がっていました。左側に大きめの建物がありますが、これは神川中学校です。当時はまだ神川幼稚園は無く、幼稚園の南側を通る町道也没有。

下段の写真は令和5年(2023)にドローンを使用して上段の写真とほぼ同じ場所を撮影したもので、上段の写真から半世紀も経つと開発が進み、建物や道が増えているのが分かります。

今昔**写**真で見る町の移り変わり 丹**荘**・青**柳**・渡**瀬** 編

今私たちが日常で見ている風景も、やがては新たな風景へと生まれ変わっていきます。日々の変化を記録し、後世へ伝えていく手段として「写真」があります。写真は、地域の歴史や暮らしを知るうえでとても貴重な資料であり、撮影された時代を生きた人々にとっては、懐かしい人や風景を思い起こさせる大切な宝物ともなります。

今月号の特集は、丹荘・青柳・渡瀬地区内で撮影された写真から町の移り変わりを見ていきます。まず初めに、表紙となっている役場の写真を見てみましょう。左の写真は昭和47年(1972)に撮影された神川村役場です。この当時の役場庁舎は現在の場所ではなく、総合福祉センターの場所にありました。この庁舎は神川村となる前の丹荘村役場※の庁舎を活用していました。この3年後の昭和50年(1975)に現在の植竹地内へ移転し、平成31年(2019)に新庁舎が完成しました。

※丹荘村役場の建設時期は不明です。町に残る村役場資料は昭和7年(1932)のものが最も古いものとなります。丹荘村の誕生が明治22年で、そこから撮影時の43年間のどこかで建設されたと考えられます。

古い写真はとても**重**要

家の中に眠っている古い写真の中には、貴重な情報が詰まっていることがあります。今では無くなってしまった建物、開発が進み様子が変わった自然のほか、現代では見られなくなった人々の生活や習慣が写真として残されています。

撮影された年代と場所が特定できる写真は、現在の町の状況と比べられることから重要な歴史的資料となります。



昭和30年代丹荘駅踏切



養蚕室 大字小浜地内



前組羽根倉遺跡遠景



昭和63年渡瀬バイパス



神川中学校駅前